

後半 つかう編 駅前広場のコンセプト・ルールを考えてみる

駅前広場は、通勤する人、学生、子ども連れ、イベント出店者、地域住民など、さまざまな人が利用する場所になります。広場は「つくって終わり」ではなく、完成後にどう使いこなすかが問われます。そこで「つかう編」では、羽衣駅前広場を使いこなすためのコンセプト・ルールを考えました。ここで生まれた案は、9月のフォーラムを経て、11月の第6回ワークショップで整理していきます。

ワークで生まれたアイデア

(読みやすくなるように一部編集をかけています)

コンセプト案

- 「非日常」よりも「日常(使いやすい)」を大事にする。
- 小さく始められること、自由さ・余白がある、ルールがキツすぎない(イベントの申請などもシンプル)。
- どこでもない、楽しくなるよう。おどridasう遊びがある。
- 羽衣エンゼルがただよよう夢がある上品さ。
- 繋がる、楽しい、集える場、みんなが集える、リラックスできる。
- 誰もが、表現する、発揮する、発表する。
- 創造できる場、生まれる、はじまる、チャレンジ。
- 羽衣の Center of Gravity ほっといたら人がふらふらと集まってしまう所(賑わい、交流、掲載的ビジネス、文化の中心地)。
- 優雅な空間を楽しめる。
- 羽衣らしさを楽しめる。
- 余白・いい意味での未完成・ゆとり、その時の100点を進化。
- 羽衣(地域)が育てる羽衣(地域)を育てる。
- みんなをつつみこむ(静・動バランス良)羽衣だけに。
- むすぶ、つながる。
- つつむ、ひろげる(静・動バランス)。
- 毎日が幸せ。
- ほっとする。
- なごむ、ほっとする(清潔さ、住んでよかった、我慢できる、日常、見せたくない、あそこ行ったら楽しそう元気になる)。
- 誰もがワクワクできる。
- 進化・成長。
- 誰でも主役になれるイベントをどんどんしよう(イベントをハードルを下げる)。
- 全ての「人」を大切に
- 出る杭支える(におい、アップデート、welcome、バカやって OK、みとめてる)。

コンセプトにもルールにもなり得る案

- (駅前なので、色んな人がくる場所)「新しい(モノ・コト)」をイベントなど受け入れていく。
- 品が良い、使ったら片付ける、キレイ。
- 羽衣の顔(対外)であり鏡(自分を知る)でもある。
- 安心して生活できる。
- だれでも気軽にチャレンジできる(一部じゃなく、内輪じゃなく、一見さん welcome)。
- 風化しない努力が必要、(しっかりした組織)参加しやすい。

ルール案

- だんだん成長する、白いボードに自由表現好きなようにつくる、いいことと思たらする(木を切ったり草を引いたり)。
- フレキシブルなルール運用がされる広場。
- みんなで作る、みんなで守る、他の人のことを考えて使う。
- ポイ捨て禁止! やつたらあかん! タバコ、ケンカトラブル、夜間騒ぐ。
- 知らない人にも「こんにちは」。
- 落ち葉の文句はあまり言わない。
- 決められた場所以外での駐停車、ゴミのポイ捨てなどのマナー違反になる行為は広場利用者同士で注意するとかマナー違反しにくい雰囲気づくりをする。
- ゴミ拾いは「運」拾い。
- ルールは入れかえよう。
- ゆずりあえる。
- 安全を保つ、安心して使える広場。
- 何も禁止しない、みんなの常識がルール(フレキシブルに対応する)。

フォーラム ぜひお越し下さい



日時: 2026年9月5日(土)
18:30~20:00
場所: アプラたかいし小ホール
主催: 高石市



周辺道路を含めた駅前広場の計画図の検討と、完成後の駅前広場を使いこなすためのコンセプト・ルールを考えました

2026年7月11日(土)に、高石市役所にて、第5回目の「羽衣駅前から考える「つくる/つかう」ワークショップ」を開催しました! 前半つくる編では、9月5日(土)に駅前広場のデザインをお披露目するフォーラムに向けて、周辺道路を含めた現状の駅前広場の計画と、これまでのワークショップや社会実験の結果、南海電鉄高架下の一部が新たに広場に加わる可能性を説明し、活用に関するアイデアを集めました。後半つかう編では、完成後の活動に向けて、駅前広場のコンセプト・ルールを考えました。今回もワークショップの運営に関わってもらう市民有志「はごろもフレンズ」のメンバーにテーブルファシリテーションを担っていただきました。

日程

- 第1回 2025年12月6日(土) 第2回 2026年1月24日(土) 第3回 2026年2月28日(土) 社会実験 2026年4月18日(土) 第4回 2026年5月23日(土) 第5回 2026年7月11日(土) フォーラム 2026年9月5日(土) 第6回 2026年11月7日(土)

くわしい内容は内面に→

広場周辺の道路計画と、これまでのワークショップをふまえた計画図

1 広場周辺の道路計画の方針と考え方について

A：一方通行化

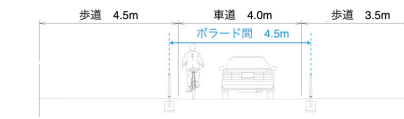


整備後は、羽衣駅東側線が北行き、羽衣駅西側線が南行きの一方通行となります（いずれも側道整備後の規制です）。

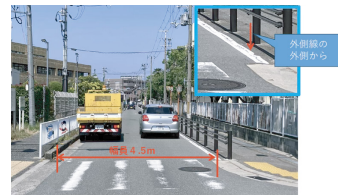
羽衣駅周辺では、令和5年3月の基本構想、令和7年2月の基本計画に基づき、現在、夕方のピーク時に送迎車が道路の両側に停車し、通行を妨げる危険な状況が生じている羽衣駅東／西側線を改善するため、両路線を一方通行の駐停車しにくい道路環境として整備します。

B：将来の断面構成

ポラード間距離のイメージ



車道 4.5m の道路のすれ違い状況



羽衣駅東／西側線は、都市計画において幅員が東側線10m、西側線12mと決まっているため、その中で歩道と車道の配分を検討する必要があります。今回の整備では広い歩道の確保を優先し、道路構造令に準拠して歩道 3.5m、車道 4.0mとしています。ポラード（車止め）は歩車道境界より歩道側に控えて設置するため、故障車等の停車時もすれ違いが可能です。

C：停車スペース



将来の羽衣駅東／西側線は、送迎のための停車がしにくくなりますが、羽衣駅前線に停車スペースを設け、乗用車3台分と高石市福祉バス1台分を確保して、送迎等の停車需要に対応します。あわせて、身体障がい者用の乗降場1バスとタクシー乗り場2バスも確保する計画です。なお、雨天時の調査結果からも、必要な停車台数は確保できる見込みです。

2 道路計画について、こんなご意見やご質問をいただきました

Q 車道の幅員が広がると車の速度が上がるのではないですか？ 4mの車道において、停車を防ぎ速度を抑制するためのハード面の工夫はありますか？

A 幅員 4 ～ 4.5m では通り抜けが可能となるため、路面に凹凸があるように見える「イメージハンプ」の設置を検討しています。

Q ハンプは物理的な凹凸として設けられないのでしょうか？

A 設置は可能であり速度抑制にも効果的ですが、通行音が大きく沿道環境への影響があるため、イメージハンプの方が望ましいと考えています。

Q 車道を広げるのではなく歩道を広く確保し、緊急車両は有事に歩道を通行する形とした方がよいのではないのでしょうか？ 車道を1台分とすれば長時間の停車も抑制されるでしょう。現状は塾の送迎車両等により、障がいのある方など真に停車を必要とする人が停められない状況にあるので、こうした事態を避けるため、市の条例で駐車場の確保を求める方策も考えられるのではないのでしょうか。

A 歩道と車道では構造が異なります。有事に限り緊急車両が歩道を通行することは可能ですが、はしご車は車体が大きいため、歩道ではその重さを受け止められません。そうした運用も検討した上での現在の幅員です。

Q 東側・西側での停車が想定されるため、当初1年程度は駐停車禁止の啓発をし、北側停車帯の認知度を高める必要があるのでは？ また、雨天時に北側と自由通路の間を濡れずに移動できるようにしてほしい。

A 道路交通法上は5分以内で人の乗降や荷物の積み卸しを伴う場合のみ停車として認められています。守られない場合も警察が取締りをおこなうことは想定しにくいので、注意喚起等の啓発が必要となります。その方法については今後議論していきたいと思います。

Q 台数調査では19時台に17台の停車があったとされています。現状も改札を出てすぐ乗車する利用が多く、車両の通行に支障が生じており、将来は停車帯に車列ができるのではないのでしょうか。対策は？

A 物理的には停車が可能で、交通規制による取締りも困難なため、お願いベースの運用となります。

Q 車道については、コンビニエンスストアやドラッグストアの荷捌き、引越し車両等の停車があります。その間は追い越しができない道路となるため、やはり道路幅員は実質4.5mは必要ではないかと考えた。

A 荷捌きは経済活動の生命線であると認識しています。ゆえに、安全性と経済活動の継続性等を総合的に考慮した上で、車道幅員は4.0m、ポラード間4.5mを確保しています。

3 ワークショップや社会実験の結果として南海電鉄高架下の新展開！



新たに駅前広場と一体的な活用に向けて検討を始めた高架下のスペース

これまで商業施設がつけられる予定だった南海高架下の一部を、ワークショップや社会実験「羽衣トライデイ」の結果を踏まえ、新たに駅前広場内の屋根下空間として、一体的に活用する検討を南海電鉄と進めていることをお伝えしました。

社会実験「羽衣トライデイ」で高架下の日陰が滞留空間として有効に活用されていたことや、高架下にテントを設置して、スムーズに出店（出展）ができていたこと。そしてワークショップで頂いた「イベント時は広くフレキシブルに使える場所がほしい」「芝生広場や緑のある場所で休憩したい」といったご意見を両立させることができること。さらには昨今の屋外環境での暑さや日差しを避けられる空間を多く確保することで、過ごしやすい屋外広場環境となること。こうした理由から、駅前広場東側の一部を交換することで、高架下を駅前広場の一部として活用するという計画です。

4 高架下の活用について、こんなご意見やご質問をいただきました

（文字数の関係上編集しています）

Q トライデイの際に各種データを取得していたと思いますが、風力の調査はおこないましたか？

A 実施していません。風解析はおこなう予定ですが、現実的に、徹底した風対策は難しいでしょう。フィルターとなる樹木等を配置することで一定の効果が見込まれるため、検討はしていきたいと思います。

Q 高架下設備整備箇所は人が通行できるようになるのでしょうか？ また、東側の南海電鉄の建物が孤立した場合人が入らなくなるのでは？ 東羽衣駅の通路から建物へ入る動線は検討していますか？

A 今日いただいたご意見は南海電鉄に共有しますが、判断は同社次第です。建物についても、まちづくりに寄与する用途を導入いただくよう伝えていきたいと思います。

Q 高架下の設備を東羽衣側へ移設したり、設備を上部に設置して下部を通行可能にしたりすることはできないでしょうか？

A 南海電鉄には伝えますが、実現の可能性は高くないと考えています。

Q 高架下の柱は現状のまま残るのでしょうか。広場の整備に合わせて、単なる高架下に見えない工夫はできませんか？

A 南海電鉄からの高架下利用に関する条件は原則として制約が多いです。協議していきたいと思います。

Q 夜間にプロジェクションマッピングをするなど、塗装等によらずに楽しめる工夫ができるのでは？ 羽衣国際大学の映像制作とのコラボレーションもできそう。

A 「つかう編」は今後も継続するため、使い方については引き続き検討していきたいと思います。

5 高架下の活用アイデアを考えました

（文字数の関係上編集しています）

